

## ■常盤小学校の実践

### (1) 研究内容

○4年生の社会科の学習と関連させてアイヌ文化や歴史を学習し、その理解と人権意識の深化を図るため、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の展示資料等の見学及び同センターの小中学生団体体験プログラムを活用した体験学習を行った。

### (2) 学習活動を通して育てたい力

○豊かな体験を通して、自然や人との関わりを深め、生命を尊重する心と美しいものに感動する心を育成する。

○好ましい人間関係の確立や生命尊重の心を育成し、考える場や体験・実践の場を通じて人権意識の深化を図る。



### (3) 実践の内容

#### 【実践】「サッポロピリカコタンの活用」について

##### ○ねらい

- ・アイヌ文化交流センターの展示物や施設を見学し、アイヌ文化と歴史についての一層の理解を図る。
- ・アイヌ民族の方から歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識の深化を図る。
- ・文化財等の実物に触れたり歌や踊りを体験したりする活動を通じてアイヌ文化に親しむ。

##### ○学習内容

<第1次> (社会科)

◇社会科「昔から今へと続くまちづくり」の中単元1:「アイヌの人たちの生活と文化」の学習と関連させてアイヌの人たちの歴史や文化の学習を進める中で、現代における人権意識の高まりや大切さについて理解する。

#### (1) 社会科「昔のアイヌの人たちの生活と文化」

- ・アイヌの人々の暮らし…衣・食・住と自然、文化、芸術
- ・アイヌの人々と和人の出会い

(2) 社会科「アイヌの人々の歴史と人権」(～江戸時代／明治～昭和時代)

<第2次> (総合的な学習の時間)

◇アイヌ文化交流センター訪問におけるプログラムの内容を理解し、学習の準備をする。

(1) 資料を活用して簡単なアイヌ語について理解し、質問の内容を考える。

◇アイヌ文化交流センターを訪問し、アイヌの人たちのくらしや文化、人権について学習したことをまとめる。

(2) センターを訪問し、見学や体験学習を行う。

①講話 ②楽器の生演奏・舞踊鑑賞と体験 ③アイヌの子どもの遊び体験

④施設見学(チセ・丸木舟等屋外展示物、館内展示室)

⑤児童からの質疑

(3) 学習のまとめ

#### (4) 成果と課題

##### ① 成果

- ・講師の方の講話や、楽器の生演奏・舞踊の鑑賞、子ども遊び等のプログラムは、児童の様々な感覚に響く「体の中の自然を呼び起こす古くて新しい」興味深い体験であり、児童は意欲的に学習に臨むことができた。これらの体験活動を通じ、アイヌ民族の自然観、アイヌ語の意味に関する話、展示物の見学を通じ、アイヌ文化の奥深さと自然とともに生きる姿にふれ、アイヌ文化への一層の理解と敬意をもつことができた。
- ・展示室の見学では、様々な民具の実物に触れることができることで、児童の興味や関心を一層高めることができた。

##### ② 課題

- ・今年度は午後の2時間を見学に充てたが、体験プログラムで学んだ事柄を児童それぞれの新たな学びの視点として、同センターの展示室や自然の森、歴史の森を自由に巡る時間の確保が大切であると感じた。このため、講師の方々も望んでいるように最低2時間30分から3時間の活動時間が確保できるよう、訪問する側(学校)が余裕ある時程を組む必要がある。

